



地域日本語支援ニュース こだま 第412号

2021.11.11



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

====目次=====

1■日本で育つ：東京都から■

逆境を成長機会に

柴山 智帆

2■AJALT からのお知らせ■

AJALT の著作教材を活用した

「日本語教師のための教え方講習会（オンライン）」開催のお知らせ

3■進学進路ガイダンス情報（2021年）■

=====

1■日本で育つ：東京都から■

外国にルーツを持つ若者が、日本で将来を考えるには多くの課題が立ちはだかっています。せっかく希望をもって高校に入学しても、続けられずに中退してしまったり、大学進学を断念してフリーターになったり、そこにはどのような壁があるのでしょうか。今号は、NPO を立ち上げて、このような若者たちの未来を応援すべく、仲間と精力的に活動している柴山智帆さんからのご報告です。

.....

逆境を成長機会に

特定非営利活動法人 glolab 代表理事

AJALT 所属日本語教師

柴山 智帆

特定非営利活動法人 glolab (グロラボ) は、外国にルーツを持つ 15 歳から 24 歳くらいまでの若者のキャリア支援に取り組んでいる NPO です。スタッフの半分が 20 代から 30 代の外国にルーツを持つ社会人と学生で、これまでの当事者としての経験を活動に活かしています。

◆glolab 設立まで

以前私が勤務していた外国ルーツの子どもたちを支援する NPO では、年間約 60 名の子どもたちを毎年高校へ送り出していました。しかし、希望をもって高校入学しても、中退してしまったり、高校卒業後の進路に悩んだりする子どもたちが多くいました。さらに親の理解が得られず、大学進学を断念しフリーターになった子、せっかく大学に入っても経済的な理由で中退せざるを得なかった子。彼ら彼女らが進学、就職する上で、多くの壁があることを知りました。もちろん一つ一つ壁を突破して社会人として自立した大人になっていく子もいましたが、中には途中であきらめてしまう子もいたのです。そういった若者たちを見て、「個人の努力だけでは、進路を切り開くには壁が厚い。若者たちの進路をサポートの仕組みが必要なのでは。」と強く思うようになりました。

そのような中、外国にルーツを持ち進路になやんだ経験を持つ副代表の景山と出会い、少しずつ活動を開始しました。外国にルーツを持つ当事者としての経験のある人と私のような支援経験のある人が一緒に活動したら、子ども・若者の未来を応援できる活動ができるのではないかと私たちは意気投合したのです。これが glolab の始まりです。

◆外国にルーツを持つ高校生の厳しい現状とその要因

文部科学省が平成 30 年度に実施した調査によれば日本語指導が必要な高校生の中退率は、高校生全体の中退率の 7 倍、非正規就職率は全体の 10 倍とといった大変厳しい状況が明るみになっています。では、どうしてこのような厳しい状況に子どもたちは置かれているのでしょうか。私たち glolab は 4 つの要因があると考えています。

・日本語習得の課題

日本語が壁になり、教科学習についていけない生徒がいます。文部科学省は、小中学校で認められている特別の教育課程を高等学校でも認め、令和4年からモデル事業を立ち上げ、令和5年から開始を予定しています。この課題については今後改善されていく可能性があると考えています。

・進路選択の課題

外国にルーツを持つ子ども、若者は留学生と違って、自分の意思で日本に来ているわけではありません。必ずしも日本社会や将来に対して前向きな気持ちを持っていない場合もあります。そういった子ども、若者に対して、どのような道を歩めば将来が切り拓けるか知るためにロールモデルとの出会いは大切ですが、そういった機会は限られています。

また、在留資格によっては就職する際に在留資格を変更しなければならなかったり、奨学金受給に制限があったりする場合があります。進学する場合も、日本語が母語ではない生徒にとって大学受験は簡単ではなく、外国語能力が生かせる大学など情報収集が必要となります。しかし、こういった複雑な状況を周りの大人が理解していないケースもあり、情報取得が進路選択の大きな鍵となってきます。

・孤立、メンタル面での課題

希望をもって高校に入学しても、なかなか友達ができなかったり、同国人の友達だけで行動したりするなど日本で高校に通っていても日本社会から距離ができてしまう場合もあります。

・家庭の理解の課題

外国ルーツの保護者は、日本での進学や就職の情報を母語で入手することが難しく、子どもたちをサポートしたくても難しいことが多々あります。また、第一世代の保護者は仕事が忙しく、高校卒業後の進路は子どもにまかせている家庭もあります。親に相談できず、一人で悩んでいる若者がいるのです。

◆glolabの取り組み

私たちは、この4つの課題のうち日本語習得の課題を除く3つの課題に取り組み、支援プラットフォームをオンラインと対面で提供しています。

まず、「知る」活動です。この活動では、進路を考えるきっかけを提供したり、

外国ルーツの社会人の生き方を例示したりする「多言語進路・キャリア支援動画」と「外国にルーツを持つ社会人のライフストーリー」の配信を行っています。5ヶ国語で、進路を考えるヒントや、進学、就職、在留資格など進路選択に必要な知識を動画でわかりやすく解説しています。またライフストーリー記事では、外国ルーツの社会人のこれまでの人生をインタビューし、どのように壁を乗り越えたか、人生で大切にしている価値観などを語ってもらっています。この記事は今後やさしい日本語にリライトし日本語教室等で日本語を学習しながら将来について考えてもらいたいと思っています。

次にリアルに出会いや考える場を提供する「キャリアプログラム」です。今年度「みらいチャレンジプログラム」というプログラムを実施しています。このプログラムでは北海道十勝郡浦幌町の団体や社会人の協力のもと、多様な生き方・働き方をする大人たちとの出会いや将来について考える場を提供しています。参加者の子どもたちは、多様な価値観に触れることで刺激を受け、進路選択について、進学先を調べるなど実際に行動を起こしています。

しかし、情報やキャリアプログラムの提供だけでは、外国にルーツを持つ若者が壁を乗り越えるためには不十分です。外国にルーツを持つがゆえ直面する在留資格などの課題があるからです。そのため、私たちは自分の状況を知るためのLINE診断ツール、困ったら相談できる場LINE相談も、提供しています。

◆最後に

外国にルーツを持つ若者はとかく支援対象という側面だけで考えられがちです。しかし、彼ら彼女らはさまざまな壁を超えようとする中で、たくさん考えさまざまな経験をしています。そのような経験をした人たちは先行き不透明と言われる社会にこれから必要な人たちではないでしょうか。私たちは、今後外国にルーツを持つ若者が自身の力を発揮できるよう様々なプログラムを提供していきたいと考えています。

以下に2点のセミナーを紹介します。

当団体の進路・キャリア支援動画の紹介セミナーを実施します。

1) 『進学情報』[11月23日(火・祝) 13:00-14:00]

高校卒業後の進学に関する情報は多様で複雑です。そのためまずは、日本での進学の基本情報を知ることが重要です。それが主体的な進路選択のための大事

な基礎となります。このイベントでは、進学情報の動画とその活用方法についてご紹介します！

お申込：<https://glolab20211123.peatix.com/view>

2) 『センパイの体験』 [12月12日(日) 13:00-14:00]

高校生が自身の進路を考える上で参考にできるような「センパイ (先輩)」のストーリー動画を作成した当団体の理事 上村 カルロスが登壇し、制作における想いや動画の活用方法についてご紹介します。上村はこだま 2017 年度第 334 号『中2のカルロス』を寄稿させていただいております。(『こだま』バックナンバーURL: <https://www.ajalt.org/kodama-emag/backnumber>)

お申込：<https://glolab20211212.peatix.com/view>

※編集部より

その他の詳しいことについてはこちらをご覧ください。

特定非営利活動法人 glolab

<https://www.glolab.org/>
